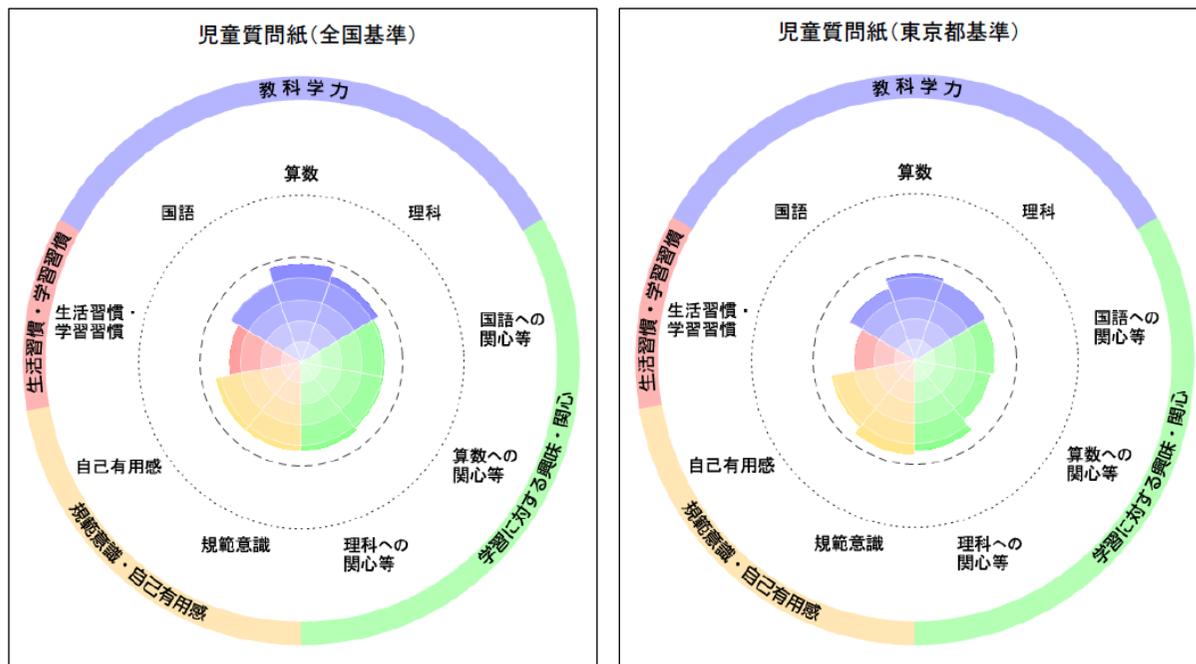


## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（第6学年実施）

### 【本校の結果】



### 【チャート図について】

このチャート図は、「全国学力・学習状況調査」の結果を表したものである。左が全国基準との比較、右が東京都基準との比較である。どちらも、点線が基準を表している。本校の特徴は、全ての項目で全国・東京都の基準を下回っているが、特に「生活習慣・学習習慣」に関する項目が基準を大きく下回っている。算数の学力は全国平均に比較的近い結果となっている。

### 【家庭・地域への働きかけ】

\*年度当初に、「家庭学習のヒント」や「家庭学習の手引き」を保護者に配布・周知し、児童の学習に対する意識が、学校だけでなく家庭でも高まるようにする。  
\*学期ごとに1週間、生活リズムウィークを設定し、「生活リズムカード」を活用して、1日の起床・就寝時刻、食事、家庭学習、挨拶等、児童と一緒に振り返る機会を設ける。

### 【現状】

3教科とも共通して、全体の平均正答率が全国、東京都の正答率を下回っており、基礎学力の定着において課題が見られた。

〈国語〉全ての問題で全国正答率を下回った結果となった。特に正答率が10%以上下回った問題は5問あり、そのうち3問が「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、漢字の問題も3問中2問が大きく全国正答率を下回っていることから、「知識及び技能」の習熟に課題が見られた。

〈算数〉全16問中、全国正答率を上回った問題は4問、大きく下回った問題は4問という結果となった。上回った問題の正答率の差は最大6.5%であったのに対し、大きく下回った問題は最大14%、その他の問題でも10%程度正答率の差があることから、学年全体として苦手な内容や領域に対する習熟度の向上が課題である。大きく下回った4問中3問が「数と計算」の領域となっている。

〈理科〉全17問中、全国正答率を上回った問題が2問、大きく下回った問題が7問という結果となった。特にメスシリンダーの使い方に関する問題は全国と比較して13.7%と大きく上回った。しかし、大きく下回った7問のうち5問は10%以上差があり、「『粒子』を柱とする領域」「『生命』を柱とする領域」の習熟において課題が見られた。

### 【授業改善のポイント】

- \*選択式でも無回答が一定数あるので、どんな問題も自分なりに答えを出したり、考えを書いたりするよう、普段の学習から指導する。
- \*日記や新聞、報告書などの「書く」活動を定期的に取り入れ、その中で文の構成や配当漢字の使用を意識的に取り組ませ、「知識・技能」面の定着を図る。
- \*計算問題の解き方の定着を図り、eライブラリでの反復練習に取り組む。
- \*文章題では場面解釈を正確に行って立式をする際、数直線を用いて数量の関係を正しく理解できるように指導したり、立式の理由を話し合いながら問題解決させたりするように指導する。
- \*理科に関しては、学習内で用語を意図的に使いながら指導する。
- \*理科学習の流れを明確にし、(実験)結果から実験の再現性を実証したり、複数の視点から事象(実験結果)を考察したりできるような、見方・考え方の視点を教師が常に念頭に置いて指導する。